

随 想

来日の感想

張 潤

日本に来たとき、日本語の実力はひらがながやっと読めるぐらいでした。あつという間に、気がついたら、日本での生活も3年目になっていました。

その中で、想像をふくらませるのではなく、自分の目で耳で心で日本を感じながら留学生活を楽しんできました。私にとって多くのことを学んだことは大変よい経験となり、私自身を本当にもっとよい人間に変えて行くだろと信じています。そして、3年経った今、私は「留学に来たことが正しかった」と分かりました。

日本にいる間に、日本と日本の文化について、私はたくさん勉強しました。しかし、まだ他にも勉強したいことがたくさんあります。日本の生活だけではなく、文化についても深く体験する機会を得ました。

日本は温泉、お寺、富士山やその芸術が大変豊富な美しい国です。今までにたくさんの旅行をしましたが、それぞれ文化や生活の方法や、美しい自然に会いました。私は奈良行ったとき見た街や大仏や観光客の周りにいた鹿は可愛かったです。初めての奈良と京都は、日本の歴史のある町なので、町を歩いていると昔の人になったような気持ちがしました。

日本で暮らして、日本の人々や文化が分かったとはいえ、まだたくさんことは分かりません。中国人として、日本の無口なコミュニケーションになれるのは簡単ではありません。中国人にとって感じたことや、経験を直接表現することは自然で大切です。反対に日本人はもっと遠慮しているし、簡単に気持ちを表しません。また、私のほんの一言で誤解したり、きずつけたりします。それで自分の気持ちを表すとき、もっと注意するようにしていますが、時々、中国人のそのままの態度が出てしまいます。この大きな文化の違いを受け入れるのはお互いに時間がかかると思いました。日本人の働き蜂は世界で有名です。今まで、私が理解できないのは、日本人と日本の仕事の関係です。日本でのほとんどの人は仕事が人生の一番大切なことだと思っています。家族や友人や、

楽しい事は次であることです。私の考えは、仕事が人生の全部ではなく、仕事は人生を束縛するものではないと思っています。もちろん、仕事の大切なことは否定しません。私たちは生活のために仕事をしていますが、仕事のために、生活するのではないと思っています。これもまだ文化の違い、人生観の違いでしょう。

3年間、日本語の勉強のみならず、日本人との交流活動もたくさんしました。これらのことを通じて、自分の考え方も変わりました。日本人と友達になるのは難しいと思っていましたが、そうではなかったです。国際交流行事に参加して、中国に関心がある日本人にもたくさん会いました。大学でたくさんの人が第2外国語で中国語を取っているし、中国に、もっと興味を持っている人がいるのが分かって嬉しかったです。日本人は中国人を軽蔑するというイメージが多少消えました。確かに全然ないとは言えないが、全体的に見ればそうでもありませんでした。どの国でも色々な人がいます。同じ中国人と言えども十人十色いるからです。

同じアジアで同じ色の肌、同じ漢字を使っている中国とは永遠に縁が切れない。両国の人たちが、お互いの国を理解する努力をしたらきっと今よりも両国の関係がよくなるし、両国の発展した未来も開けてくると思います。無論政治家の努力も重要ですが、なによりも、私のように平凡な両国の国民たちの努力が必要です。平凡な国民一人一人の努力が集まって、新しい中日関係が開けると思います。自分も帰国したら、私の体験した日本について、中国人に伝えるよう努力するつもりです。

(名古屋大学大学院医学研究科博士課程)